



■ビオトープ・サロン 暮らしの緑から考える生物多様性

去る1月22日に、NPO 法人徳島環境カウンセラー協議会との共催で、環境学習会が開催されました。これは、環境カウンセラー（環境省登録）とビオトープ管理士（財団法人日本生態系協会認定）の特性を活かし、「地球温暖化防止（気候変動）」と「生物多様性保全（生物絶滅）」の視点からの集団討議を試みたものです。そして、都市緑化の現状における問題点と解決策について、市民主体によるワークショップ形式の討議が実現しました。 編集担当

【緑の質と未来の暮らしを考える】



まずは、徳島県環境アドバイザー制度によって派遣された講師から、緑のカーテンの取り組みや街路樹を例に、都市緑化の現状のお話から始まりました。

「地球規模で考え、庭先で行動…未来の子供たちのために！」と投げかけられ、地球温暖化に関連した緑のカーテンや街路樹の現状と問題点があげられました。

次に、「緑も大量消費型から自然共生型へ、緑が自然をつなく。問われている緑の質とは!？」では、ガーデニングと庭の違い、コンクリート塀と生け垣の違い、道草と木立が自然をつなく、都市に里地や里山を、学校・園庭ビオトープを、公共用地に持続的な自然をなど、暮らしの緑の機能や意義のお話がありました。

そして、気候変動と生物絶滅の視点からは、暮らしの緑と地球温暖化や生物多様性に関連して、野生生物と自然生態系について話題が提供されました。ここでは、人口問題、淡水と食料、土地利用をはじめ、広い視点から緑と環境について、庭先で繰り広げられる野性の営みを例に、わかりやすく紹介されました。

こうして、1時間ほどの講話の後、徳島環境カウンセラー協議会事務局長がファシリテーターとなって、「暮らしの緑を考える」と題した集団討議がワークショップ形式によって展開されました。そして、テーブル・ファシリテーターには日本ビオトープ管理士会徳島支部メンバーがそれぞれ配置されました。



集団討議は、4つのテーマごとに別れ、現状の問題点抽出と課題の整理、課題解決の方策と行動指針、各グループの行動声明発表…要約は、以下の通りです。

1. 庭と生垣

問題点：①維持管理の費用／②樹種選定が困難／③虫害／④手間がかかる／⑤見通しが悪くなる

解決策：①管理技術を自分でマスター／②管理ボランティアやシルバー人材センター利用／③ビオトープの理解を深める／③在来種を植える

2. 街路樹

問題点：①過剰剪定など度が過ぎる／②看板優先になっている／③落ち葉や虫の苦情／④街路樹が少なすぎる／⑤店舗・行政・市民等、立場の違いによる考え方が理解しにくい

解決策：①住民と行政ともに納得できる仕組の提案／②樹種選定や管理に専門家の意見や参加が必要／③子供や住民が街路樹の意義を知る学習機会

3. 公園

問題点：①小規模公園は「緑が少ない」「住民から落ち葉のクレーム」「防犯上木を切る」「子供が来ない」／②大規模公園は「自然が乏しい」「植生が貧弱」「ビオトープの考えが足りない」

解決策：①市民参加の仕組／②市民から管理者に改善提案／③安全管理責任者を市民に対して明確に

4. 公共施設

問題点：①維持管理の予算がない／②計画段階で利用者が置き去り／③利用しにくいものがある／④愛着不足／⑤駐車場をとると樹木が少ない／植栽選びに問題がある

解決策：①計画段階から利用者参加／②地域との事前協議や連携と協働／③業者選びは慎重に



最後に、活動のふりかえりに代えてアンケートが用意され、皆さん熱心にご記入いただきました。ほんの一部ですが主なご意見は次のとおりでした。

①討議の結果の活かし方、今後の展開に関心、公的機関へ反映されることを期待。／②もっと多くの市民が参加できるように広報の強化や工夫を。／③このセミナー（フォーラム）を継続してほしい。／④行政側の職員の参加と、その立場からの声を聞かせてほしかった。このほか、たくさんのご意見をいただきました。今後の活動に反映させていただきたいと思います。ありがとうございました。

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集担当)

【施工部門 1 級記述問題：解説は次号で紹介】

問027：

Aさんは、大手土木施工会社の社員で、現在、山を通る道路の建設工事に現場責任者として従事しています。ある日、部下の若手技術者のB君が「どうも施工しているところに、けもの道らしいものがあり、今のままの設計で道路を建設すると、けもの道を分断してしまうと思われるが、どうしましょうか」と相談にやってきました。調査会社による事前調査では、そのような報告はなかったため、Aさんは大いに当惑しています。

もし、ここで工事がストップすれば工期が遅れ、発注者から責任を取られるかもしれないと考える一方、そもそも施工者である私たちに責任はなく、調査会社の責任なので、そこに対応するよう要求しようかとも考えたり、あるいはB君と二人だけの秘密にしてそのまま施工すれば面倒なことがなくすむか、とも考えたりしています。しかし、今は世間の目がうるさく、もし発覚したら騒ぎになるかもしれないと考えたり、思い悩む日々が続いています。

もし、あなたがAさんの立場なら、どのような行動を取りますか。400字以内で述べなさい。

■前号026の解説(計画部門1級記述問題)

希少種の移植対策において、「移植植物の管理を移植先の公園管理者である市にお願いしたい」と、管理費の負担増に難色を示す市。この状況下で、「市や地元環境保護団体に対し移植植物の生育環境の維持を依頼する仕組みづくりの提案」を県から求められた場合の提案について、留意すべき事項として以下があげられる。

- ①モニタリングの役割：環境影響評価及び保全対策の不確実性に対する現地での確認、新たな知見の整理、現地へのフィードバック等。
- ②地元保護団体との合意形成：県、市、地元団体との協議の場の設定、事業計画の経緯説明(環境保護対策の説明)、モニタリング計画及び結果の説明、課題の共有化等。
- ③望ましい管理の仕組み：地元保護団体の自主的関与の動機付け(会の目的との整合性)、地元保護団体による定期的維持管理に対する行政支援(資材供与)等。

※最近の受験者は、環境NPO構成員、国・地方公務員、外郭団体や地方自治体職員、企業退職者が増加傾向です。

■ビオトープ・サロン 熱血オジサン奮闘記! ~ブログ-ビオトープ気延の里~

寄稿：石井町のわんぱくおじさん(ビオトープ気延の里)

【~マシジミかタイワンシジミか!?~ 1月19日】



1月19日 晴れ 2011年最初の生き物ビオトープクラブがありました。長靴を履き18人と先生二人、合わせて20人が颯爽と北風を切って自転車でバッハの広場へ。今日は徳島新聞社の取材があるとのこと。

早速グリーンハウスの中で打ち合わせをしました。今日は先日見つけたシジミの追跡調査。スコップ、ふるい器、バケツ等を持ち役割分担をし、あらかじめ決めておいた調査ポイントへ。P1、P2(バッハの広場の横)にはいみじみでしたが、P3(仁寿園の横)にはいみじみ!小さな小さな貝ですが、紛れもなくシジミ! マシジミかタイワンシジミかはわかりませんが、いましたよ。かわまた先生が博物館で鑑定していただくそうです。マシジミだったらいいのにな。来週もちがったポイントで調査します。

■ビオトープ・カルテ みんなで集めるビオトープ情報

記者：樫本幸実(会員)

【徳島県版RDB 絶滅危惧Ⅱ類 オシドリ生息地】



ビオトープ・タイプ：利水ダム
 規模：約3.2ha
 環境特性：右岸が谷壁で左岸が棚田とかつての新炭林
 周辺土地利用：森林(溪畔林)と耕作放棄地(棚田)
 撮影年月日：2011年2月6日
 場所：希少種関連のため非公開

遠望のため写真は不鮮明であるが野鳥の専門家によると、右端がオシドリの雄、中央が雌、左端はオオバンとのこと。これらの他、カモ類とカイツブリを大きくしたような水鳥が遊泳していた。

オシドリは、徳島県版のレッドデータブック記載種で、絶滅危惧Ⅱ類となっている。北海道から沖縄まで繁殖記録があるものの四国での記録はないとのこと。冬期は本州以南に南下し、四国にも分布。

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報のもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集局

【E-mail: kanv@nifty.com URL: http://biotopetokushima.yu-yake.com】